資料3

健康起因事故防止に係る取組に関するアンケート調査結果

令和3年度　事業用自動車健康起因事故対策協議会

アンケート調査の目的・概要について

国土交通省

【調査目的】

主要疾病の早期発見に有効と考えられるスクリーニング検査の普及を検討するため、事業者における普及状況や課題等を把握する。

【調査内容】

1. 調査対象事業者概要
2. 国土交通省のマニュアル・ガイドラインの認知度について
3. SAS（睡眠時無呼吸症候群）スクリーニング検査について
4. 脳血管疾患スクリーニング検査（脳健診）について
5. 心臓疾患・大血管疾患スクリーニング検査について

【回答事業者】

自動車運送事業者（バス・タクシー・トラック）を対象とし、各業界団体に協力を依頼し、会員事業者に対して<u>Webアンケート調査</u>を実施。

※Web形式での調査は令和2年度から

1. 調査対象事業者概要

国土交通省

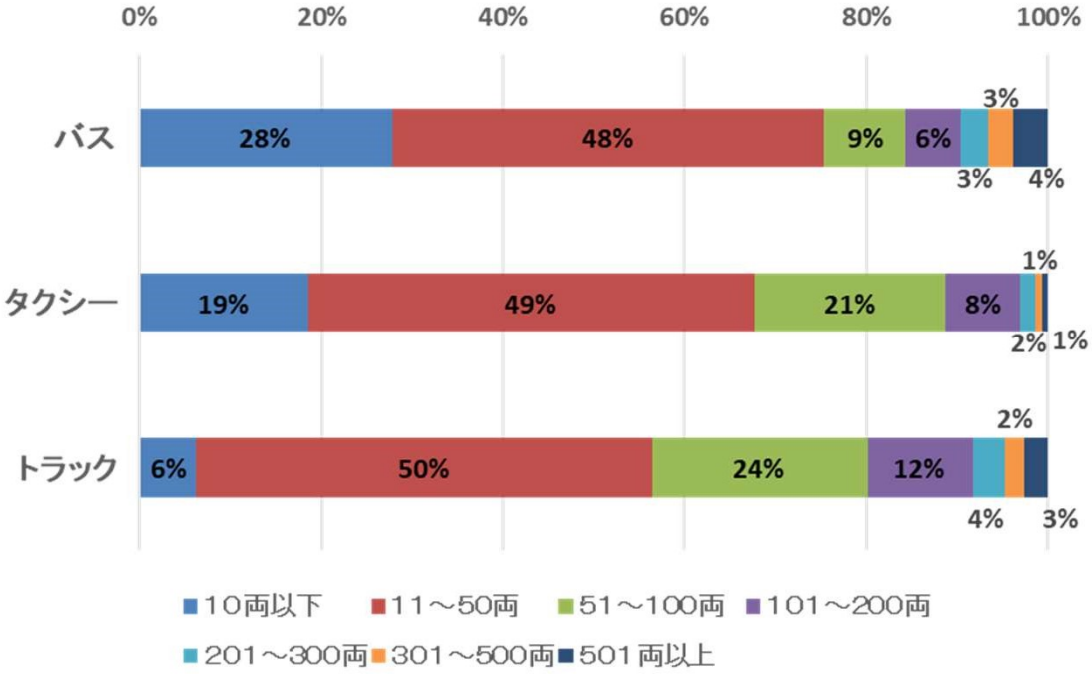
●調査対象事業者数

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
バス	311	324	266	630	627
タクシー	443	355	303	494	524
トラック	319	487	452	407	337
合計	1073	1,166	1,021	1,531	1,488

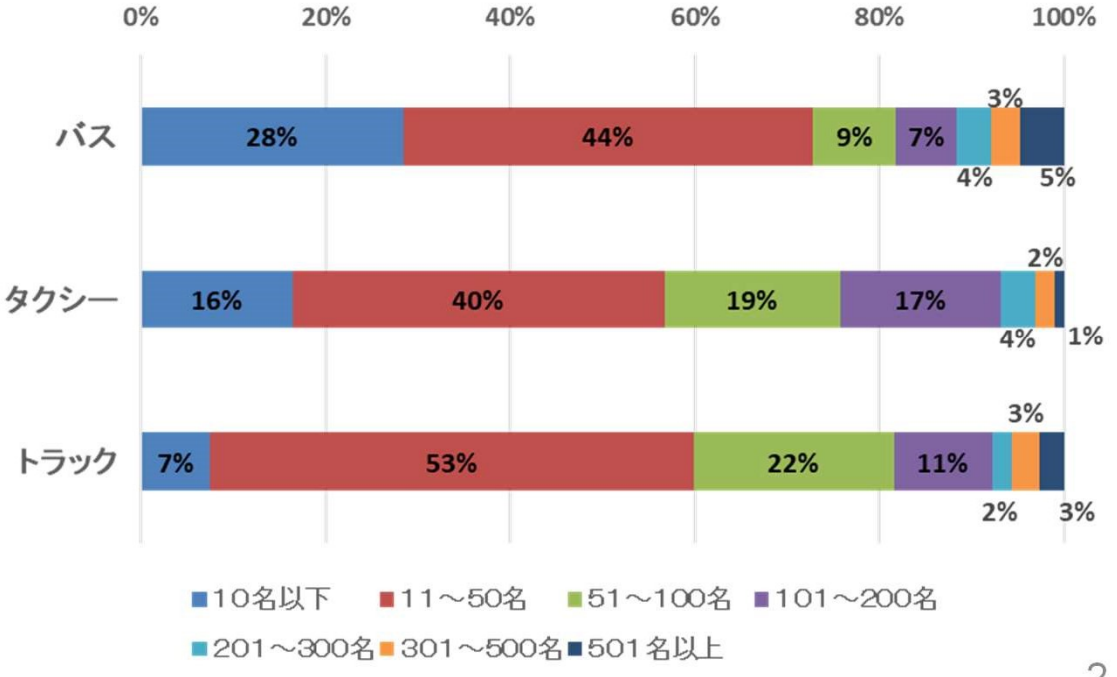
※H29～R1は紙形式、R2～R3はWeb形式でアンケート調査を実施

※回答事業者は毎年異なる。

●調査対象事業者の保有車両数（割合）



●調査対象事業者の運転者数（割合）

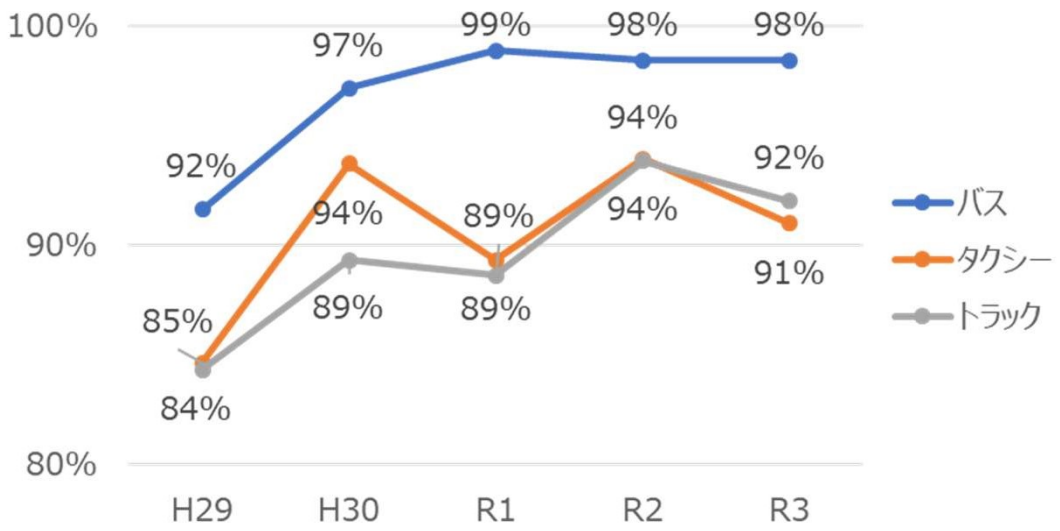


2. 国土交通省のマニュアル・ガイドラインの認知度ついて

国土交通省

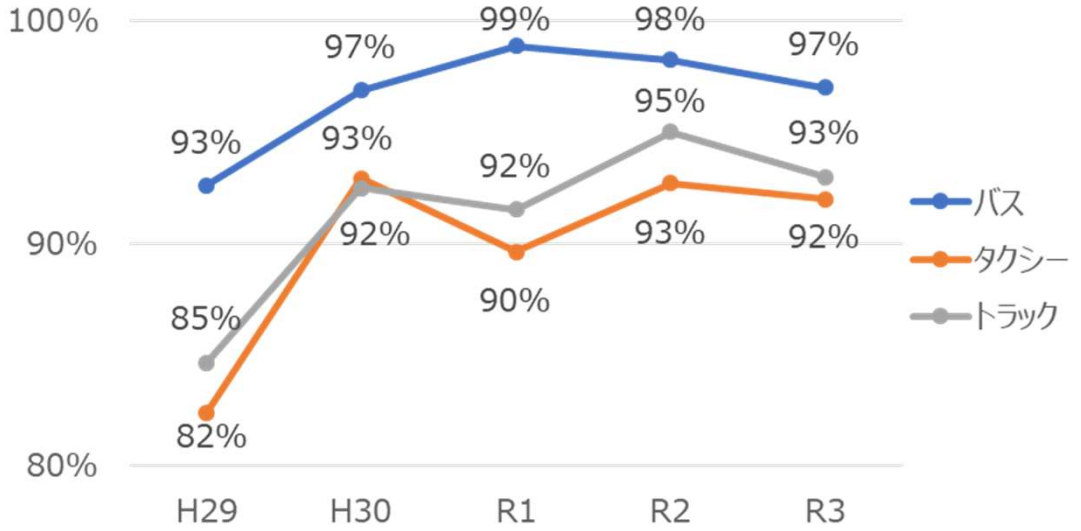
●健康管理マニュアルの認知度

※平成22年7月策定（平成26年4月改訂）



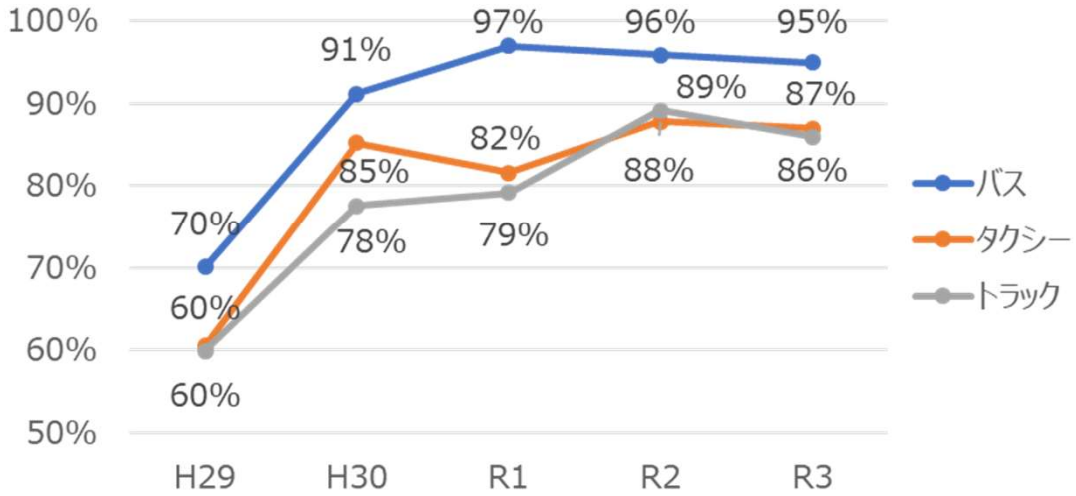
●SAS対策マニュアルの認知度

※平成15年3月策定（平成27年8月改訂）



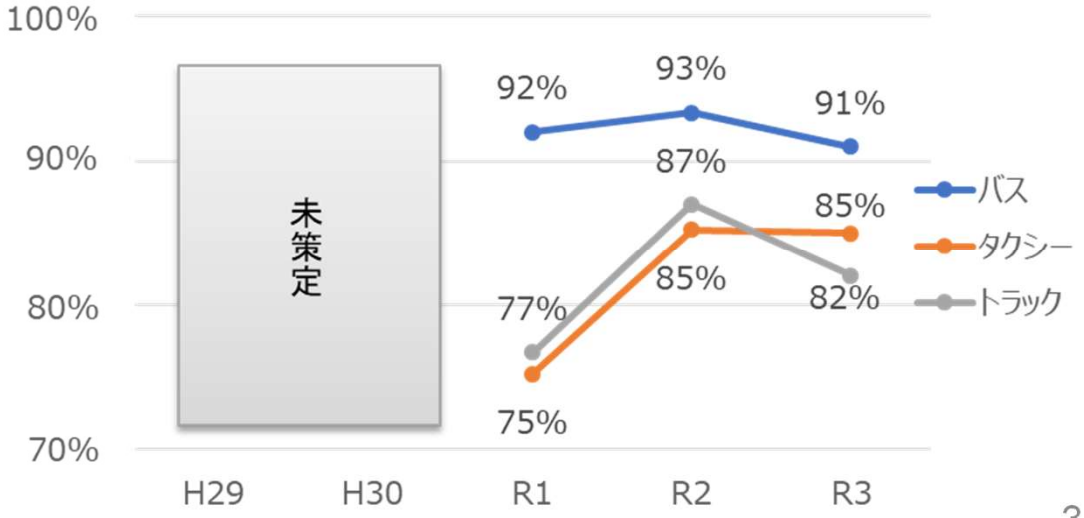
●脳血管疾患対策ガイドラインの認知度

※平成30年2月策定



●心臓疾患・大血管疾患対策ガイドラインの認知度

※令和元年7月策定

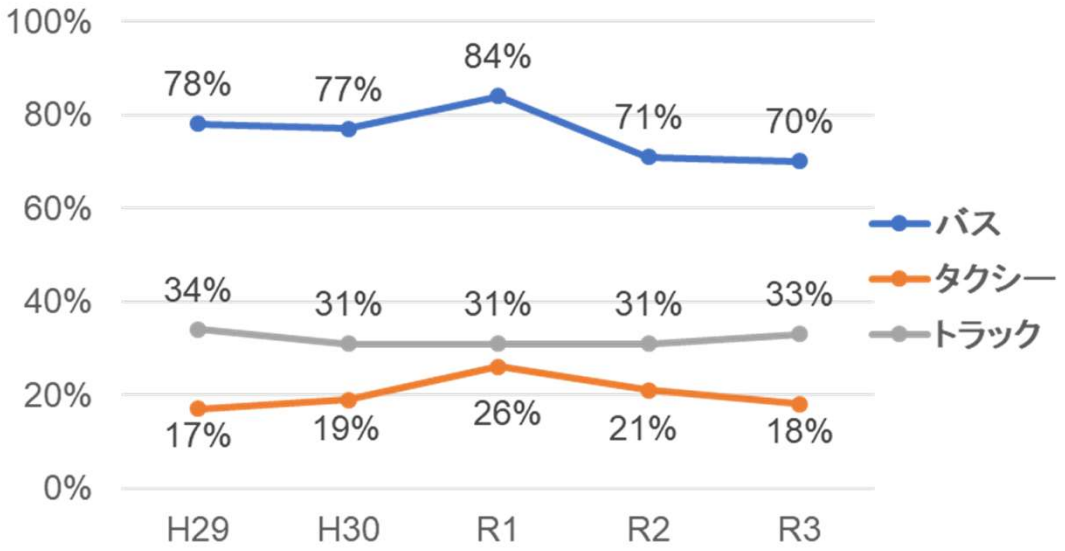


3. SAS(睡眠時無呼吸症候群)スクリーニング検査について

国土交通省

●スクリーニング検査を受診させている

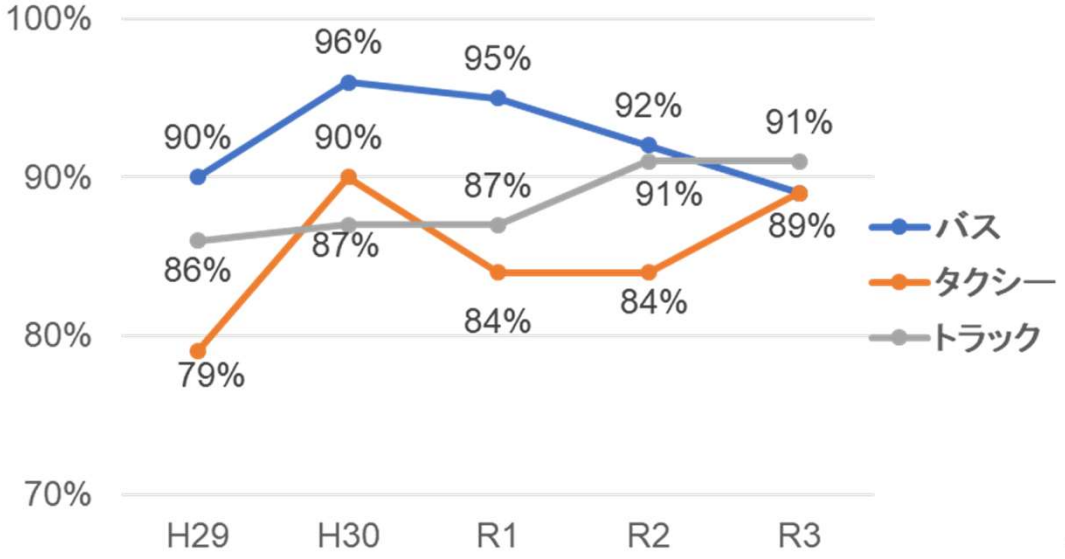
	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
バス	78%	77%	84%	71%	70%
タクシー	17%	19%	26%	21%	18%
トラック	34%	31%	31%	31%	33%



（スクリーニング検査を受診させていない場合）

●スクリーニング検査の必要性を感じている

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
バス	90%	96%	95%	92%	89%
タクシー	79%	90%	84%	84%	89%
トラック	86%	87%	87%	91%	91%

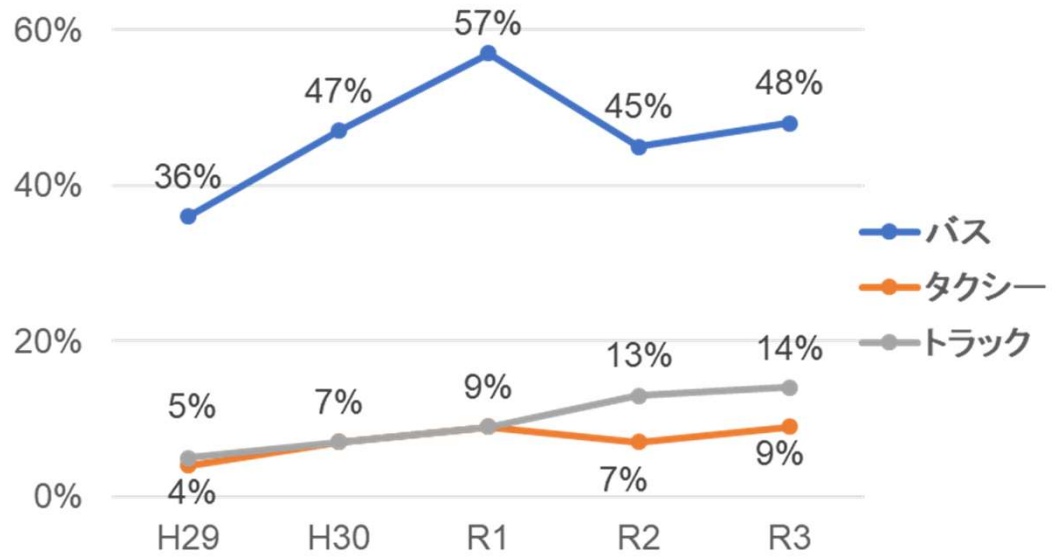


4. 脳血管疾患スクリーニング検査について

国土交通省

●スクリーニング検査を受診させている

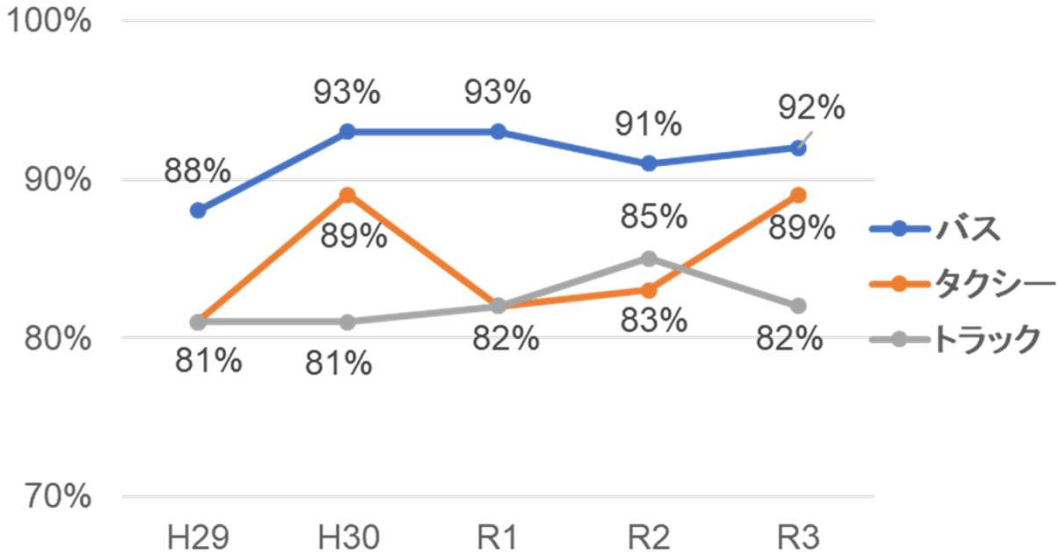
	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
バス	36%	47%	57%	45%	48%
タクシー	4%	7%	9%	7%	9%
トラック	5%	7%	9%	13%	14%



（スクリーニング検査を受診させていない場合）

●スクリーニング検査の必要性を感じている

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
バス	88%	93%	93%	91%	92%
タクシー	81%	89%	82%	83%	89%
トラック	81%	81%	82%	85%	82%

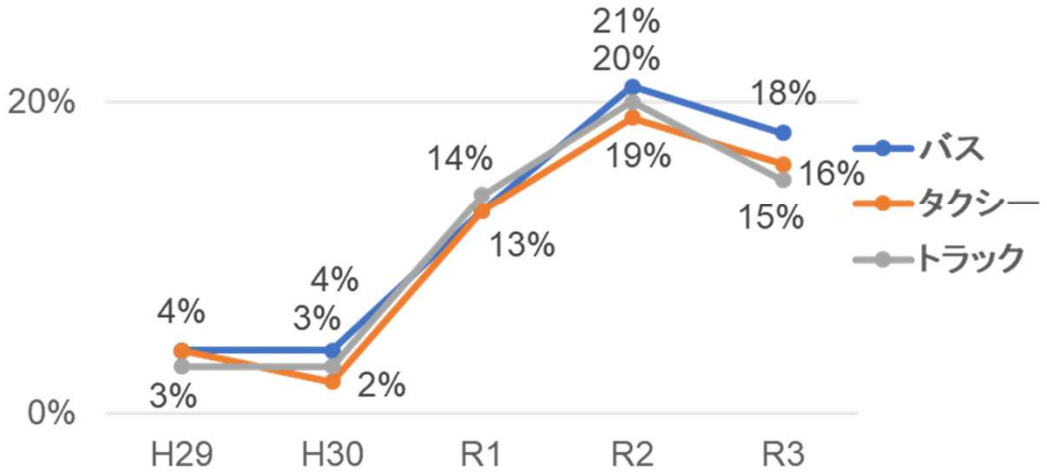


5. 心臓疾患・大血管疾患スクリーニング検査について

国土交通省

●スクリーニング検査を受診させている

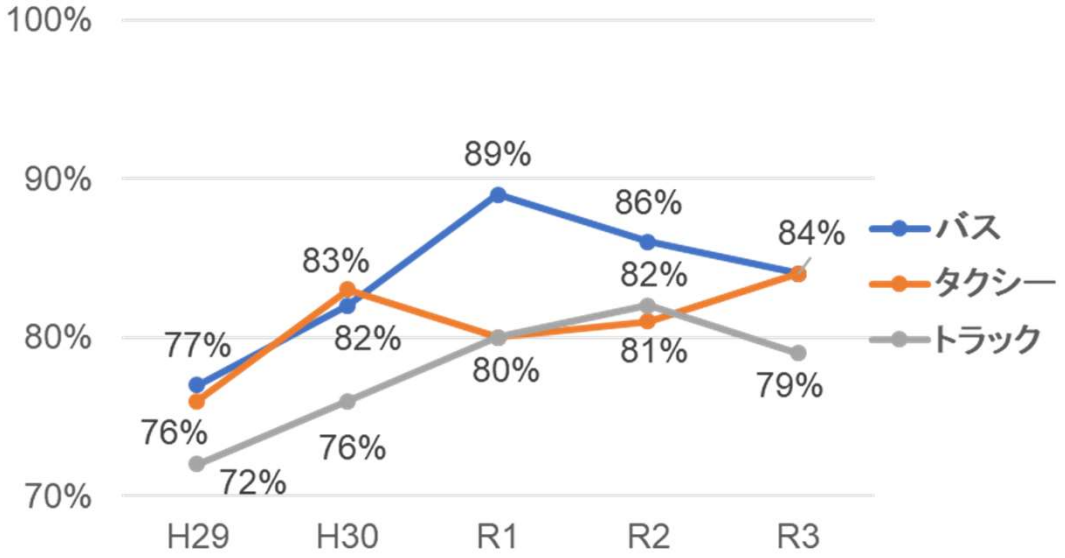
	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
バス	4%	4%	13%	21%	18%
タクシー	4%	2%	13%	19%	16%
トラック	3%	3%	14%	20%	15%



（スクリーニング検査を受診させていない場合）

●スクリーニング検査の必要性を感じている

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
バス	77%	82%	89%	86%	84%
タクシー	76%	83%	80%	81%	84%
トラック	72%	76%	80%	82%	79%



アンケート調査結果のまとめ

国土交通省

【マニュアル・ガイドラインについて】

〇各マニュアル・ガイドラインの認知度は、8割を超えている。

【SAS】

〇受診率は、バスで7割に達している。
〇必要性の認識も全モードで十分に高まっている。

【脳血管疾患】

〇受診率は、バスで約5割に達している。
〇必要性の認識も全モードで十分に高まっている。

【心臓疾患・大血管疾患】

〇受診率は、年々増加していたが、令和3年度にやや減少に転じた。
〇必要性の認識は全モードで十分に高まっている。